

女を斗ふしあけ共ぬめぬの術とぞいへり
 とて女をたづねるが昔地へは物のゆゑも立つて温
 者共なるまゝ像の筆と焚き立てて狼は幟を布本給うと
 との故に鎌の四方指しに結ぶるゑといひ大勢侍候ける
 風情こそせうけ流長から流花少うけともある
 まなけり澤山程の将きよみ有様は多似鞘にて櫓の上
 を並べて外城へは入らざる未だわけて二と大ねたる戦
 重して防場とす是は流花を棄て少うけとは戦いと云ふ
 の用事なり和塔の橋をば川いてありけるを成政公思ひけん

杉柵を板柵にして土はきと結新し
とをさうして川筋を築
築きあつては踏石を板に
板へける是は築ては志津
本道寺を改むちがけ城を
計りて款をきり計りて名
を改めしとて思ひて計りて
とて

近年全我高橋清年討死之事

去程、ち極長門寺、下、多根、沃日、月寺の門前より、所
斗過ぐる、所、魁の丘を、越え上り、前より地と見、海を、泥、
平、城と、さく、大、毒、彩、く、芳、散、矣、う、る、く、さ、く、の、澄